

奈良県学校改善支援プラン

平成23年度

追補版



= 目 次 =

奈良県学校改善支援プラン（概要）	1
平成 23 年度奈良県学習状況調査の結果概要	2
調査結果から	
学習に対する意識に関する設問	3
基本的生活習慣に関する設問	5
規範意識に関する設問	7
学習時間等に関する設問	8
社会への関心に関する設問	9
言語活動に関する設問	10
各学校での検証改善サイクルと取組例	13

奈良県学校改善支援プラン(概要)

- 1 調査結果から見られる本県の児童生徒の姿
- (1)教科に関する調査結果から明らかになった姿
 - (2)児童生徒質問紙調査結果から明らかになった姿
 - (3)学校質問紙調査結果から明らかになった姿

- 2 調査結果から見られる本県の児童生徒の課題
- (1)教科に関する調査結果から明らかになった課題
 - (2)児童生徒質問紙調査結果から明らかになった課題
 - (3)学校質問紙調査結果から明らかになった課題

明らかになった課題

- ① 表現の仕方に注意して読み、内容について理解することに課題がある。
- ② 日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現することに課題がある。
- ③ 学習が好きだと思っている児童生徒の割合が低い。
- ④ 学校のきまりを守っている児童生徒の割合は、少しずつ改善されているが、依然として低い。
- ⑤ 全国学力・学習状況調査の調査結果が、学校の取組に十分に活かされていない。

課題解決に向けた学校の取組

学校に対する県教育委員会の支援

- ・ 自校の結果の分析
- ・ 自校の課題の把握
- ・ 授業の工夫改善
- ・ 教職員研修の充実
- ・ 児童生徒の生活習慣の改善
- ・ 児童生徒の規範意識の育成
- ・ 取組への自己評価
- ・ 成果と課題の明確化
- ・ 成果と課題を基にした新たな取組

- ・ 学校改善支援プランの改訂
- ・ 集計・分析ソフトの作成・配布
- ・ 指導主事の派遣
- ・ 研修講座の開催
- ・ 学力向上フォーラムの開催
- ・ 教材の作成、配布
- ・ 小学校算数、中学校数学「わくわくワーク」
- ・ 小学校教科等指導資料、中学校教科等指導資料
- ・ 家庭への啓発
- ・ 人的支援
- ・ 地域ぐるみで学校を支援する体制の構築

平成23年度奈良県学習状況調査 調査結果の概要

1 調査の概要

○調査実施日

平成23年10月下旬

○調査目的

東日本大震災の影響で、文部科学省の全国学力・学習状況調査が実施されないことを受け、本県の教育課題の改善に向けた様々な取組の成果と課題、効果を検証し、教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立や次年度以降の取組に生かすため、県内の児童生徒の学習状況等を調査する。

○調査対象及び内容

- ・ 小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒を対象。
- ・ 調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

○参加状況

- ・ 抽出対象校公立小学校91校（44.4%）児童数5749名、公立中学校74校（69.8%）生徒数8019名。

2 調査の結果について

<学習に対する関心・意欲等>

「国語、算数・数学の勉強は大切だと思いますか」という質問について、「思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、昨年度より増加し、小学校国語、算数で約93%、中学校国語で約87%、中学校数学で約75%となっている。しかし、「国語、算数・数学の勉強は好きですか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校の算数で昨年度より増加したものの、それ以外は昨年度を下回っている。また、「国語、算数・数学の勉強が好き」な児童生徒の割合が、「国語、算数・数学の勉強が大切」と思う児童生徒の割合を20ポイント以上下回る状況は、昨年度と同様である。

<子どもの生活習慣>

「家の手伝いをしていますか」という質問について、肯定的に答えた小学校の児童の割合はやや減少しているが、中学校の生徒の割合は、増加している。

<子どもの考え方>

「学校のきまりを守っていますか」という質問について、昨年度より肯定的に答えた小学校の児童の割合は減少したものの、中学校の生徒の割合は増加している。「友達との約束を守っていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校で友達と会うのが楽しいと思いますか」「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合は増加している。

<子どもの地域での活動及び学習時間等>

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、昨年度より小学校では約14ポイント、中学校では約9ポイント増加し、平成22年度調査の全国平均を上回った。

詳細については、別添「平成23年度奈良県学習状況調査回答結果集計」のとおり。

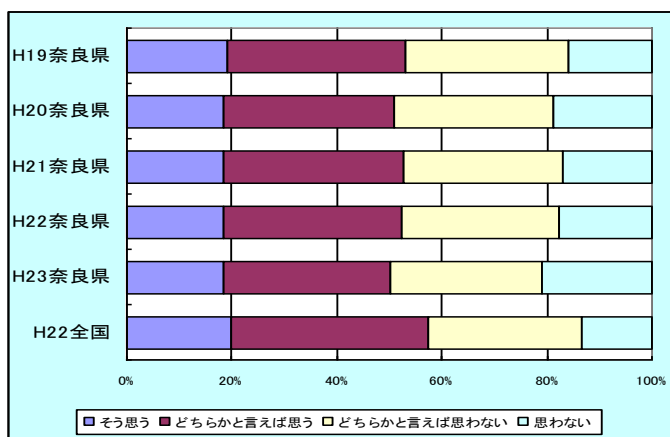
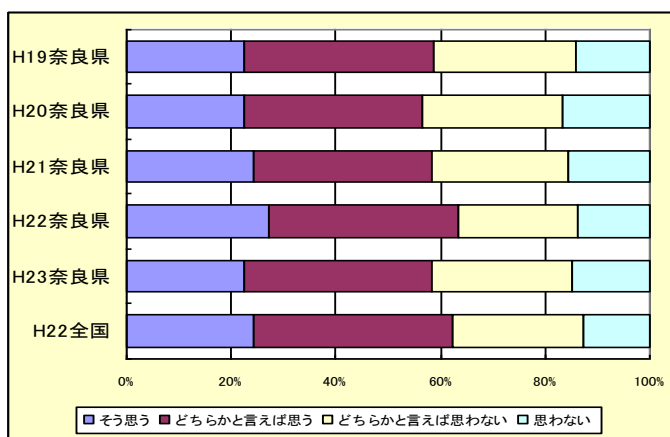
調査結果から

学習に対する意識に関する設問

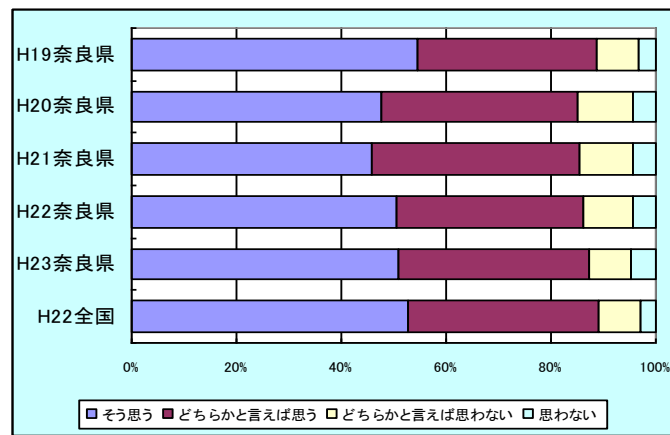
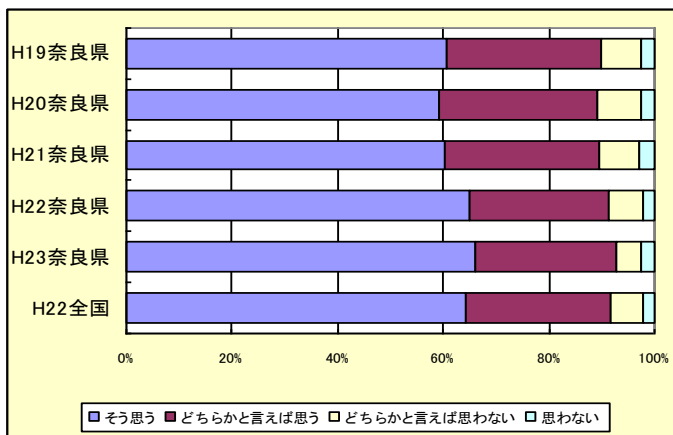
左列 小学校（背景黄色） 右列 中学校（背景水色）

「国語、算数・数学の勉強は大切だと思いますか」という質問について、「思う」「どちらかといえば思う」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、昨年度より増加し、小学校国語、算数で約93%、中学校国語で約87%、中学校数学で約75%となっている。しかし、「国語、算数・数学の勉強は好きですか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校の算数で昨年度より増加したものの、それ以外は昨年度を下回っている。また、「国語、算数・数学の勉強が好き」な児童生徒の割合が、「国語、算数・数学の勉強が大切」と思う児童生徒の割合を20ポイント以上下回る状況は、昨年度と同様であり、「国語、算数・数学の勉強が好き」な児童生徒を育てることが課題である。

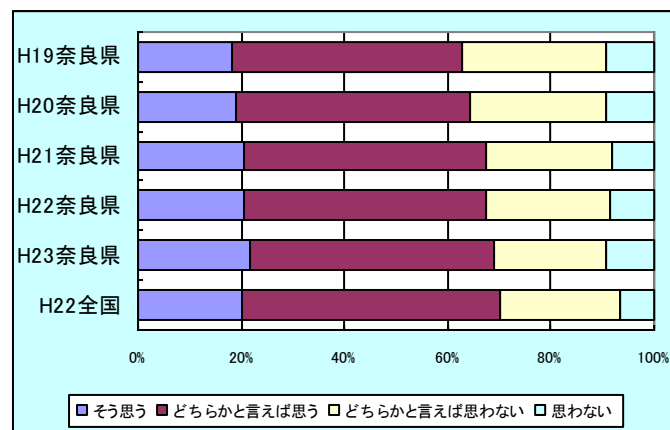
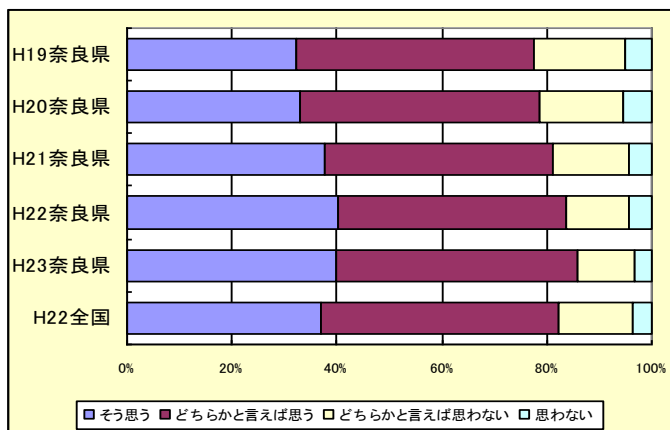
国語の勉強は好きですか



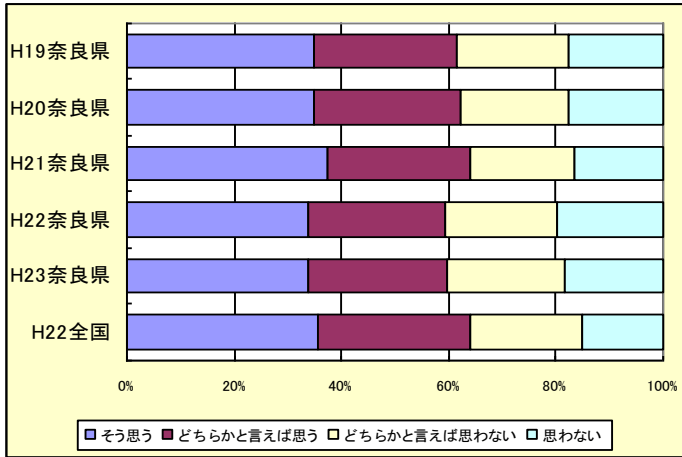
国語の勉強は大切だと思いますか



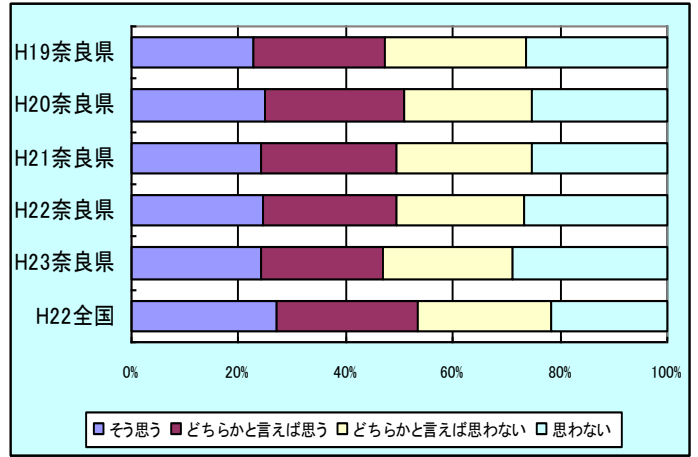
国語の授業の内容はよくわかりますか



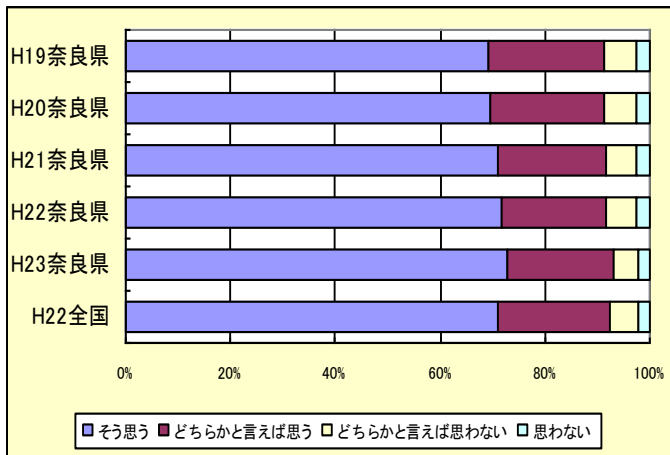
算数の勉強は好きですか



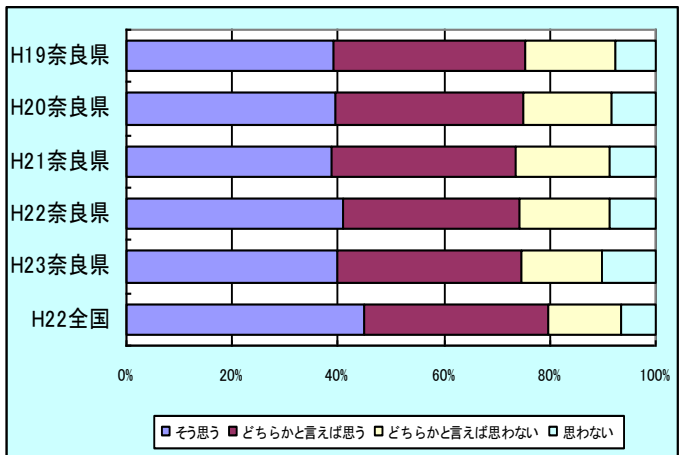
数学の勉強は好きですか



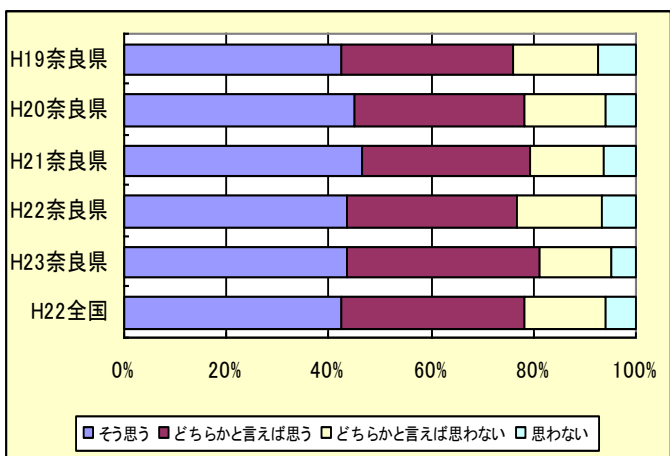
算数の勉強は大切だと思いますか



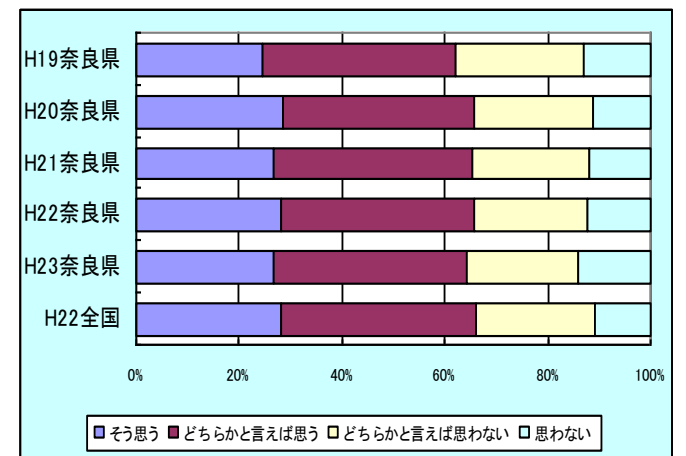
数学の勉強は大切だと思いますか



算数の授業の内容がよくわかりますか



数学の授業の内容がよくわかりますか

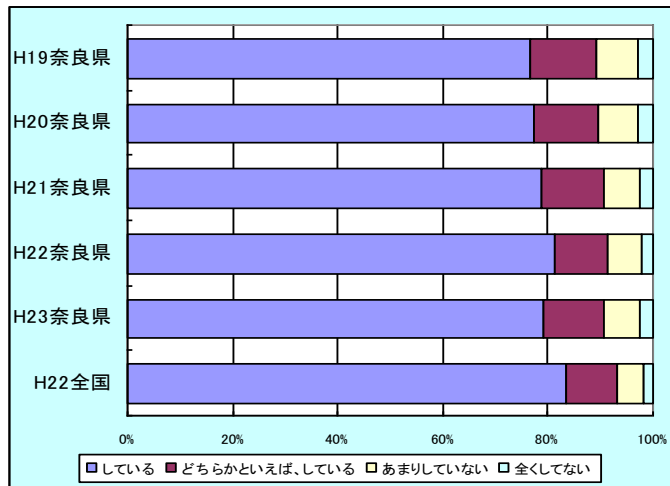
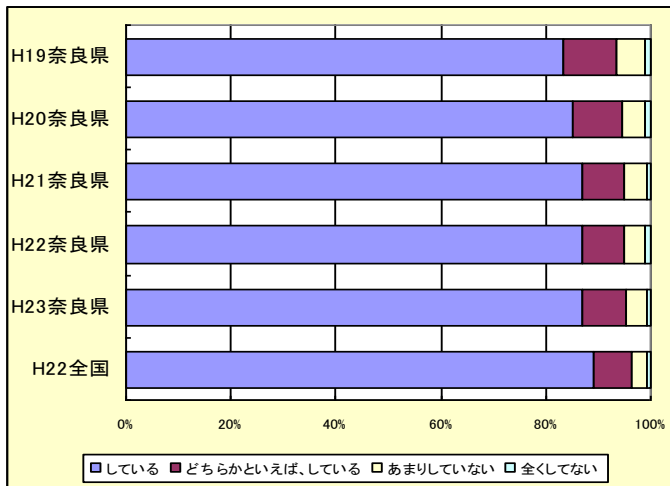


基本的生活習慣に関する設問

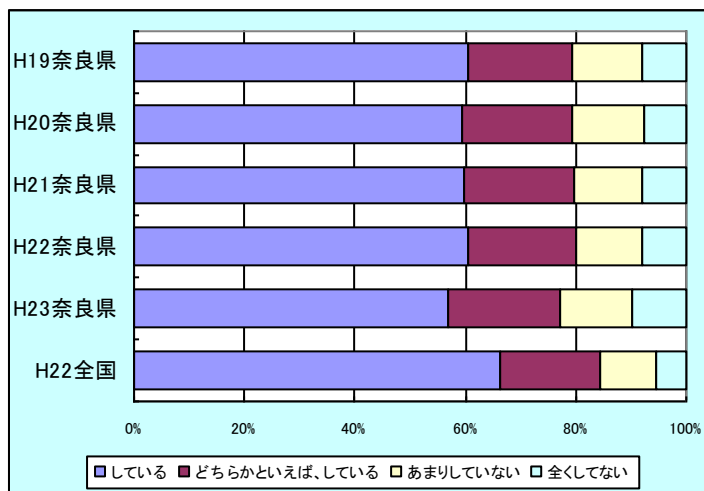
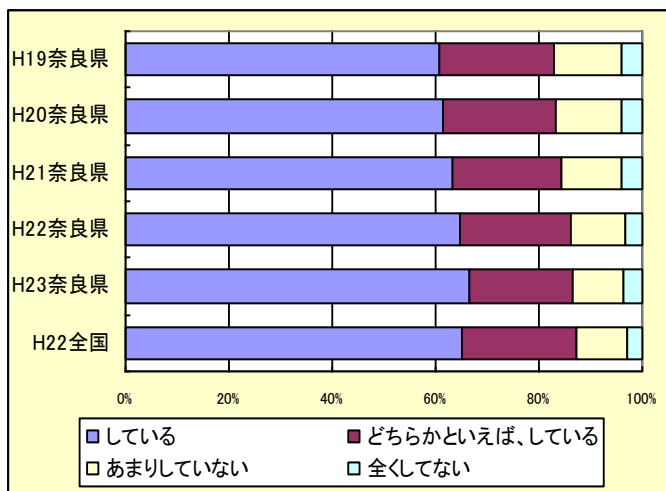
左列 小学校（背景黄色） 右列 中学校（背景水色）

毎日の就寝時刻や家庭での学習習慣など、基本的生活習慣に関わるほとんどの設問で、本県の児童生徒は、平成22年度の全国平均を下回っており、基本的生活習慣の確立に課題が見られる。特に中学校では、普段の就寝時刻が午前0時を越える生徒の割合が多く、就寝時刻が遅い傾向は平成19年度調査から5年間変わらない。

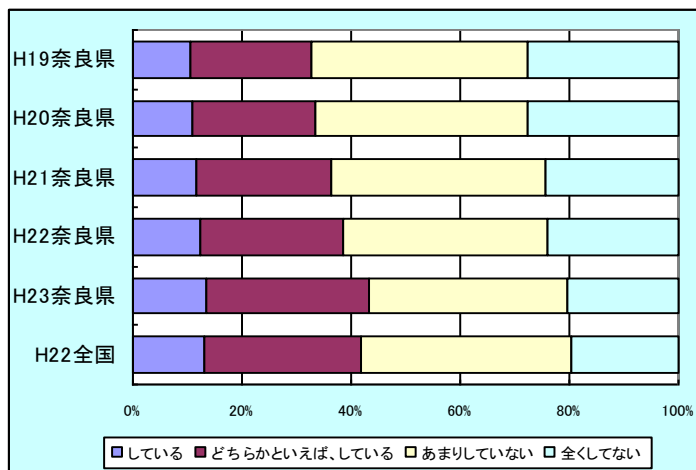
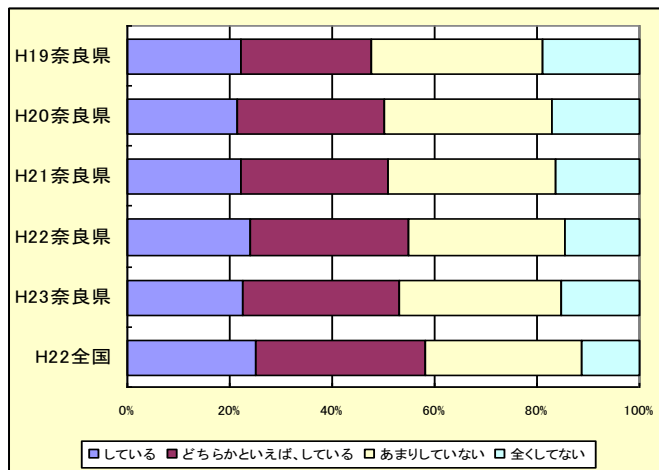
朝食を毎日食べていますか



学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか

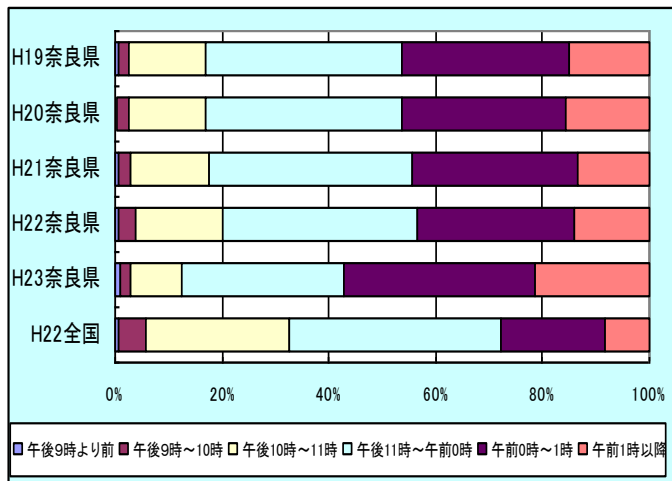
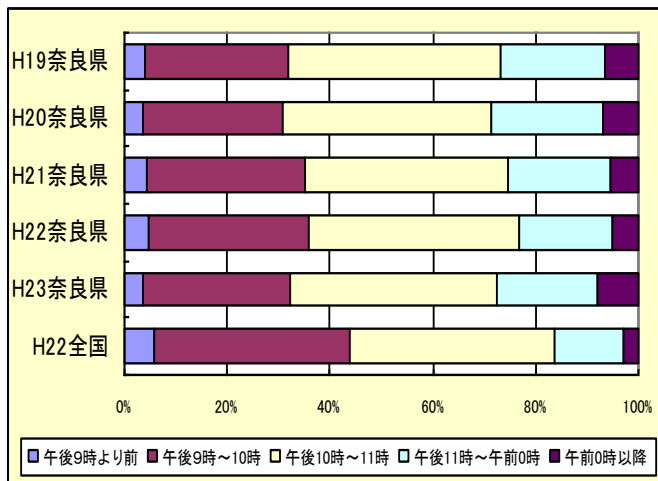


家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

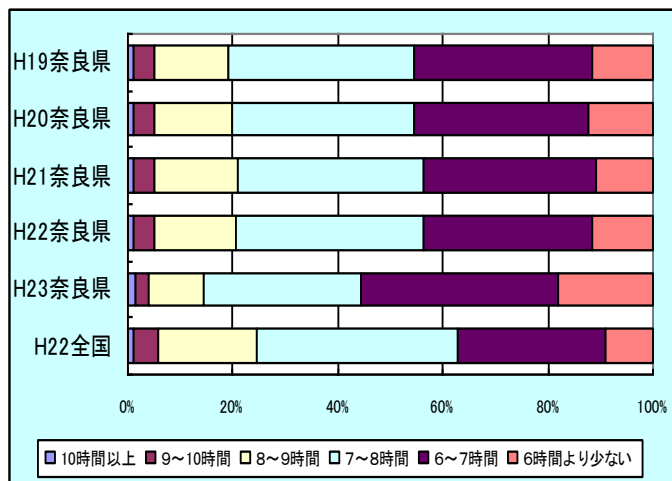
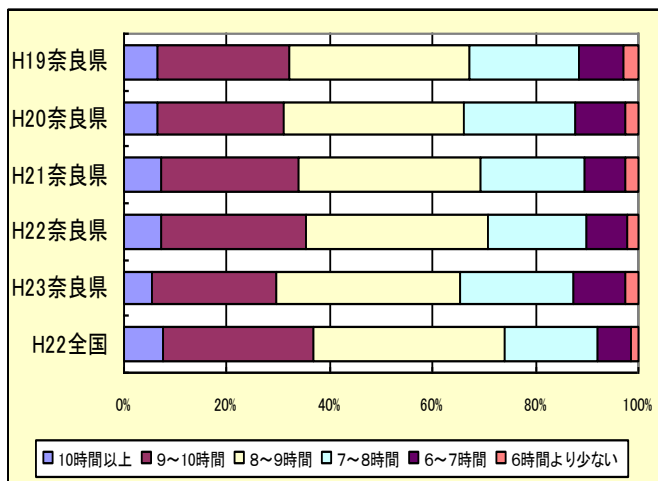


普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか

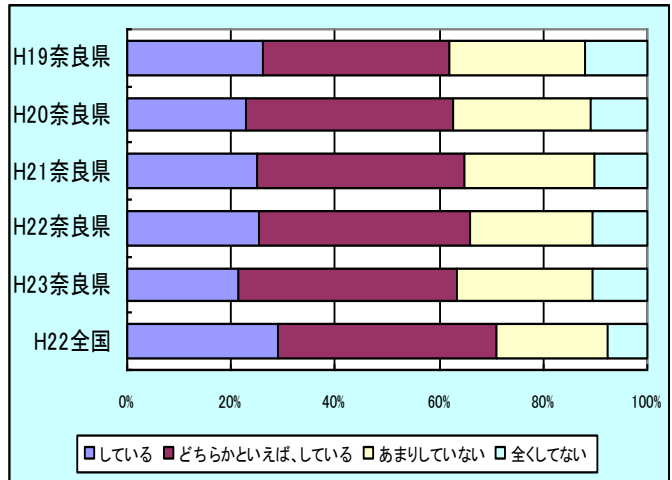
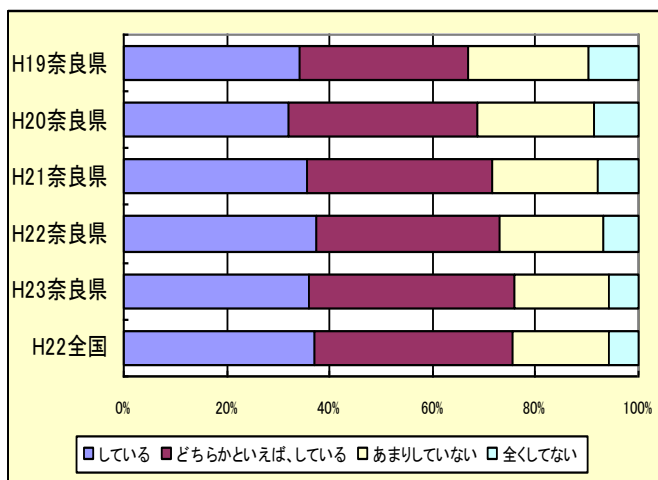
左列 小学校（背景黄色） 右列 中学校（背景水色）



普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか



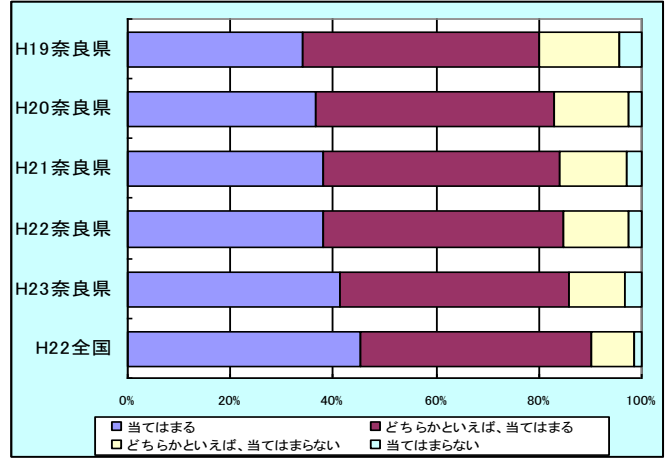
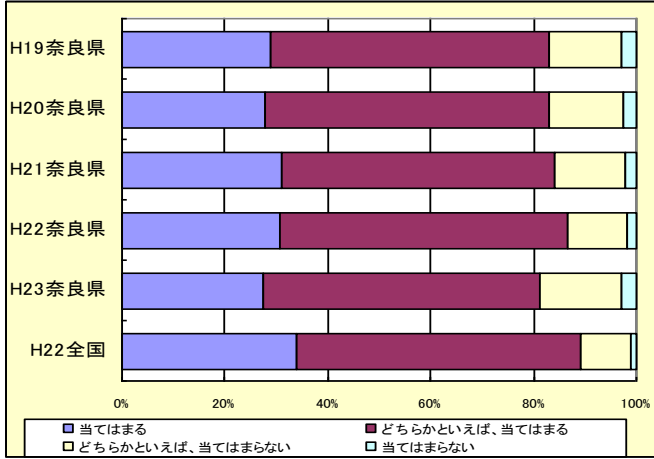
毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか



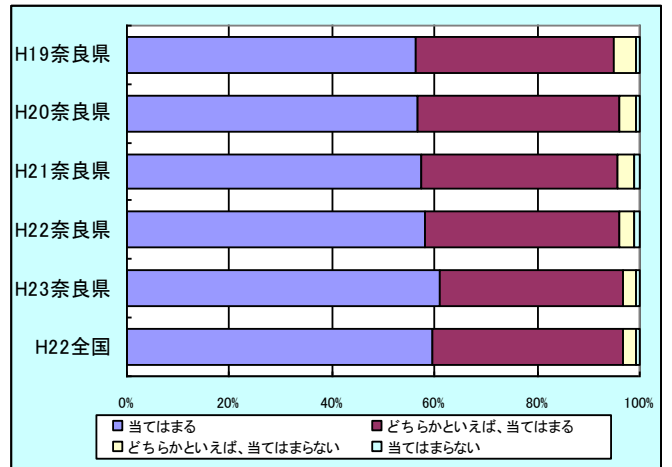
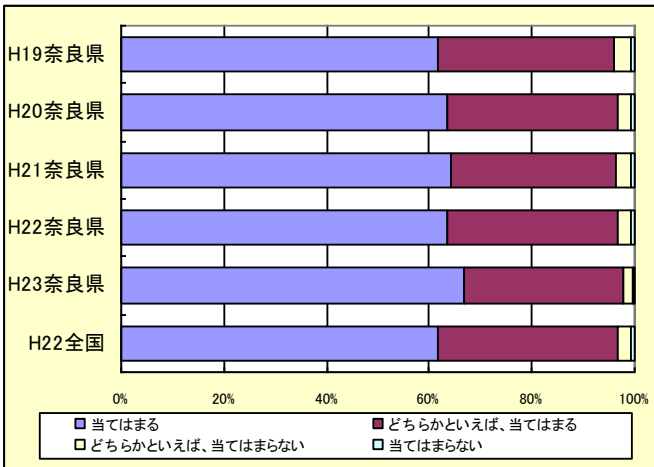
規範意識に関する設問

「学校のきまりを守っていますか」という質問について、昨年度より肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校では減少したものの、中学校では増加している。「友達との約束を守っていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合は増加している。

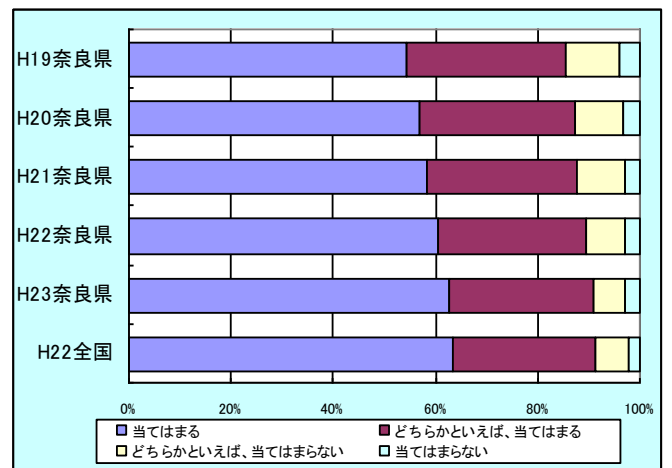
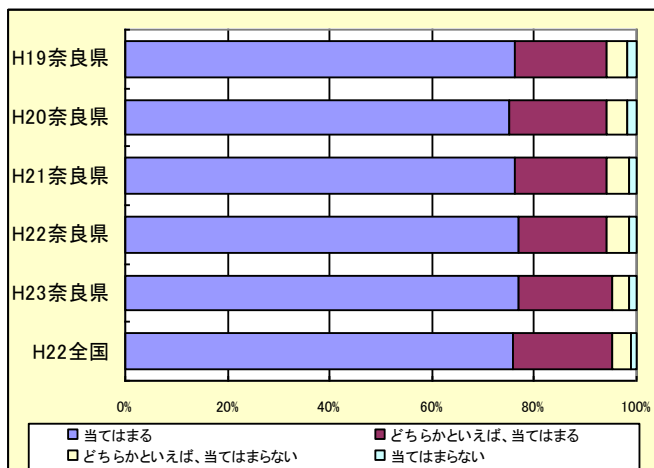
学校のきまり（規則）を守っていますか



友達との約束を守っていますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

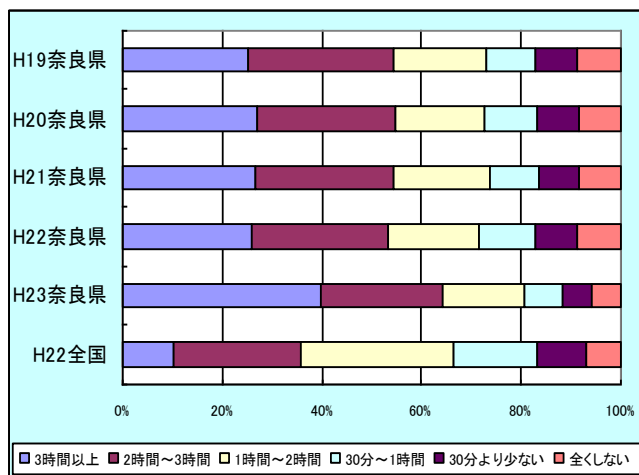
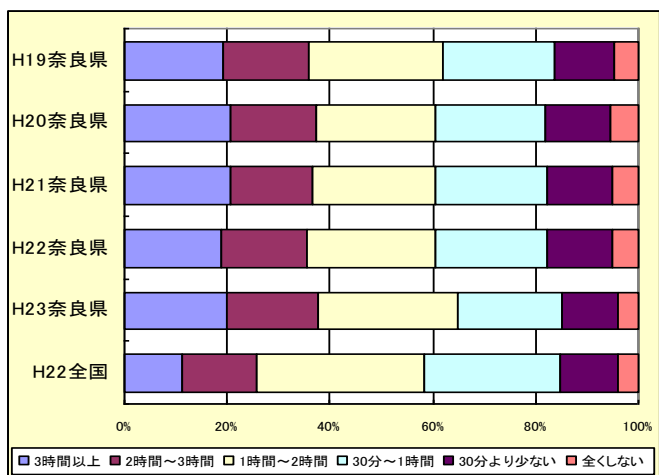


学習時間等に関する設問

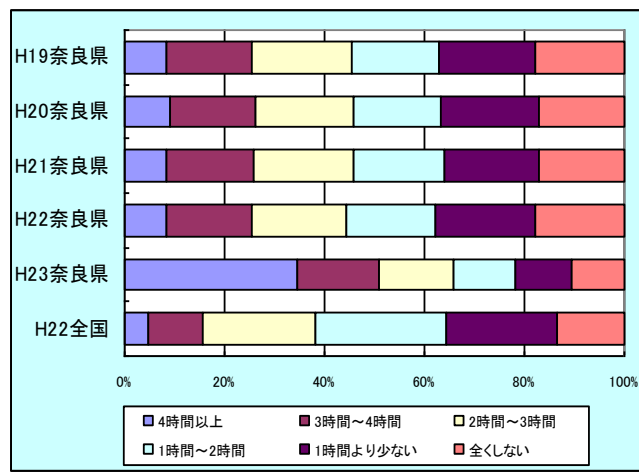
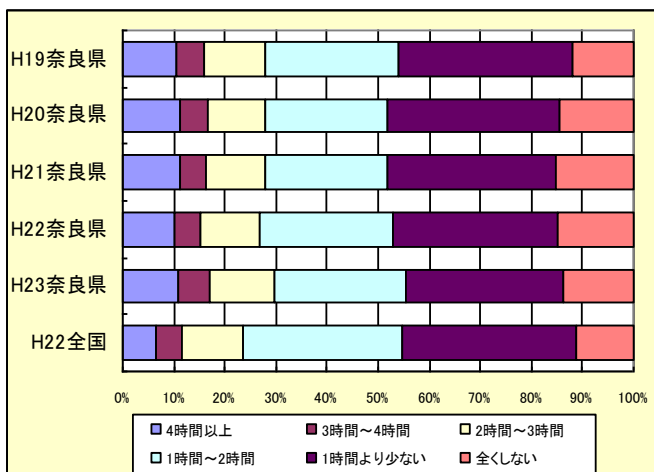
左列 小学校（背景黄色） 右列 中学校（背景水色）

学習時間等に関して、学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上勉強している児童生徒の割合は、昨年度より増加している。

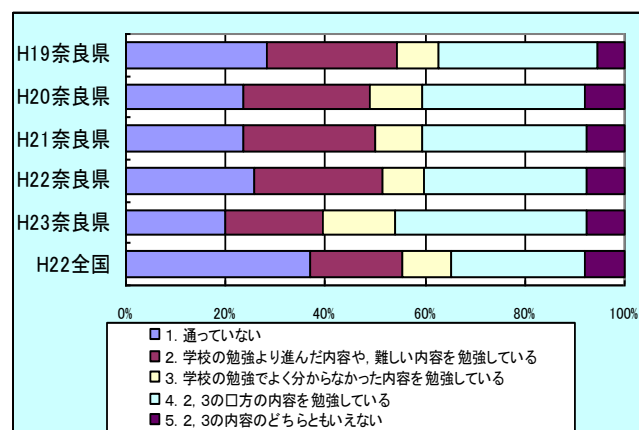
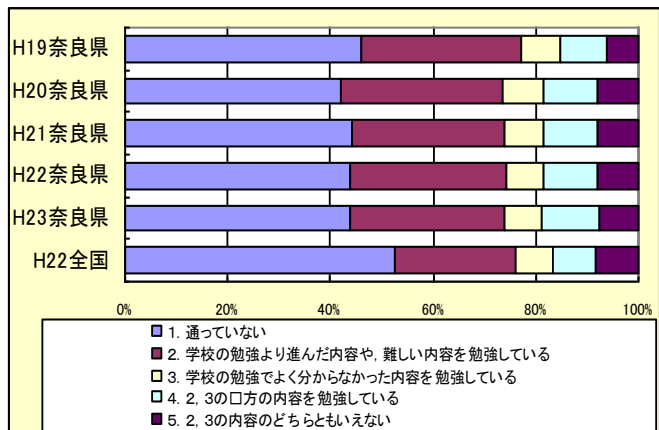
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



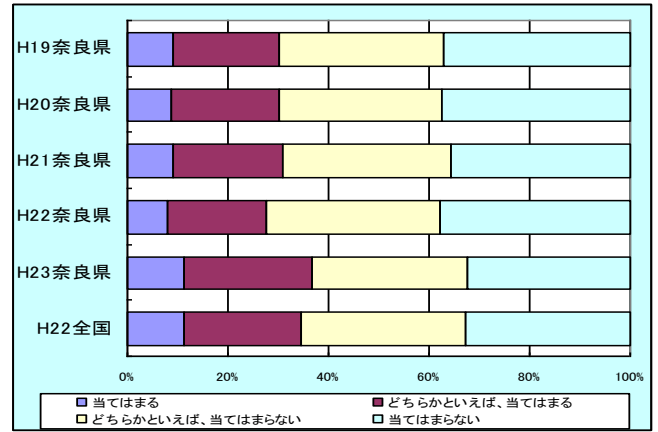
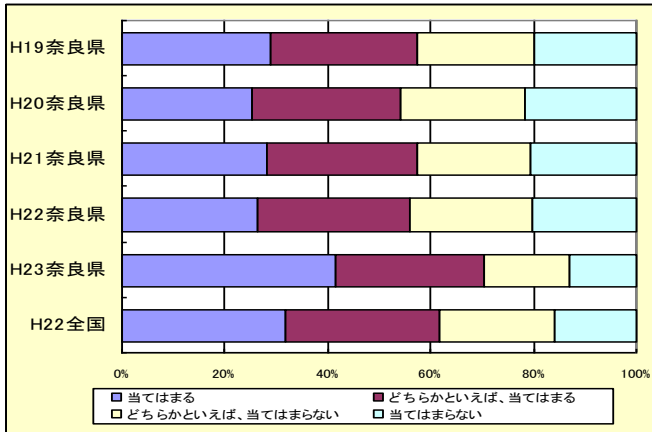
学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか



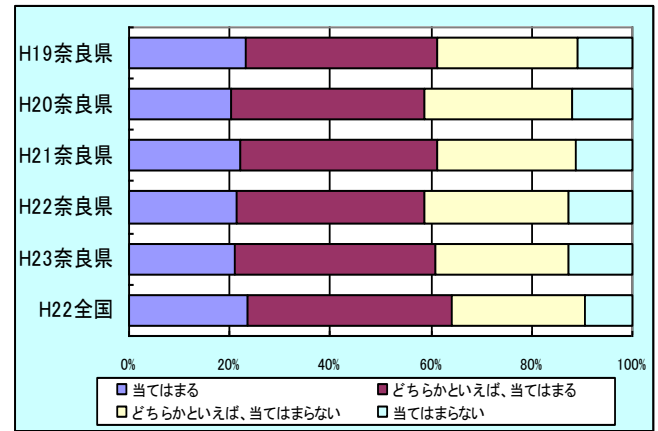
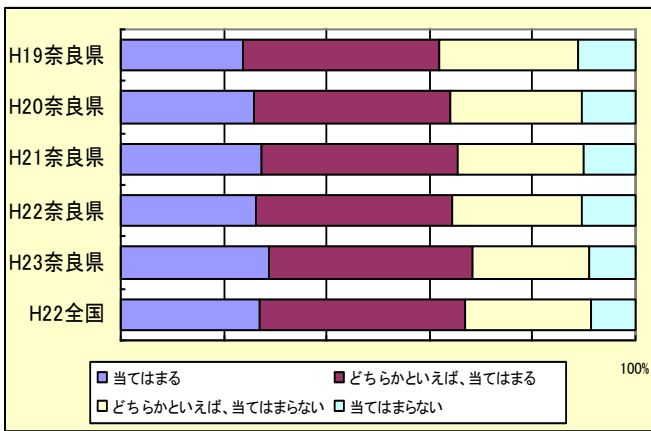
社会への関心に関する設問

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、昨年度より小学校では約 14 ポイント、中学校では約9ポイント増加し、平成 22 年度調査の全国平均を上回った。「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」という質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合は増加している。

今住んでいる地域の行事に参加していますか



新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか

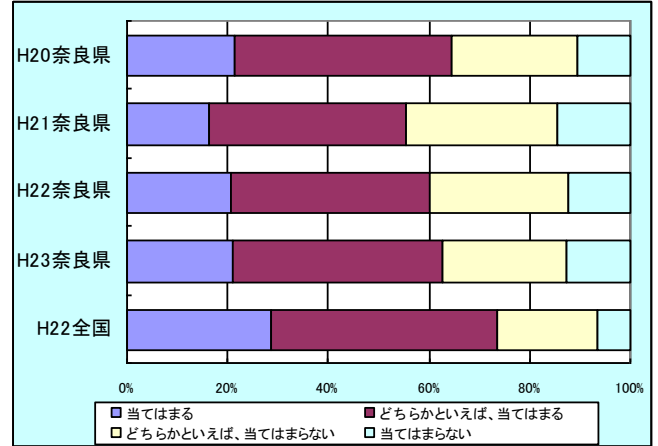
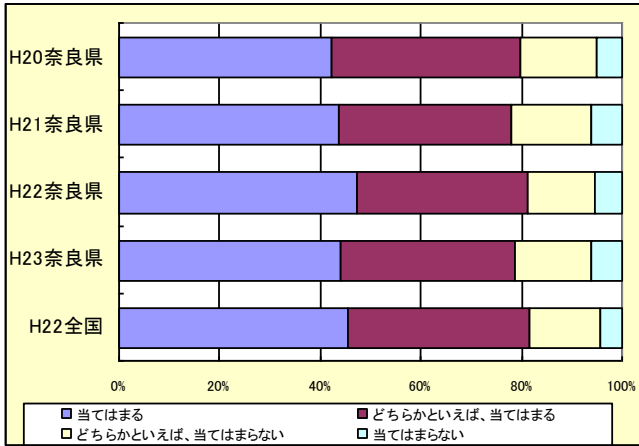


言語活動に関する設問

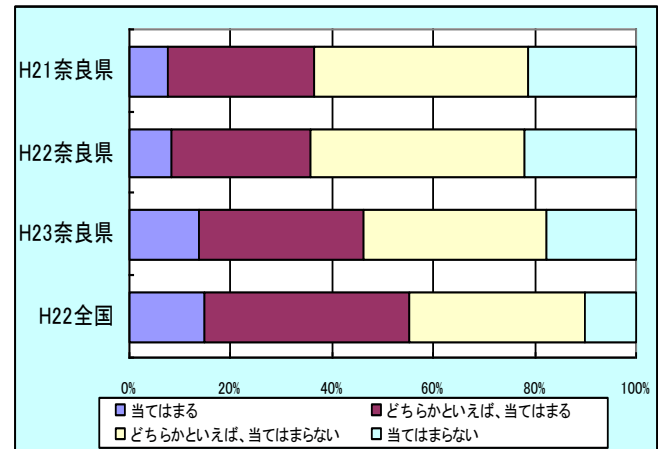
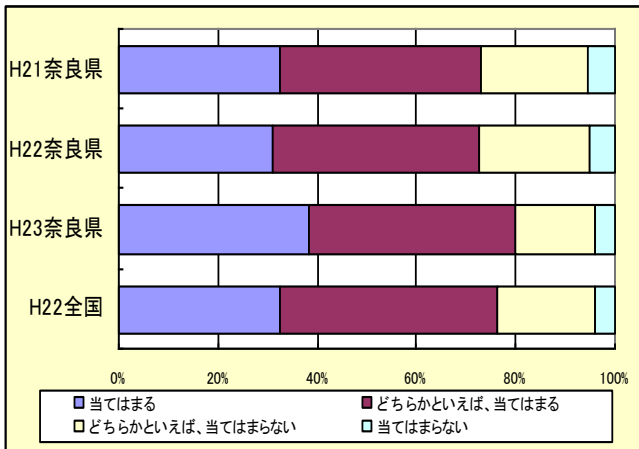
左列 小学校（背景黄色） 右列 中学校（背景水色）

「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校では昨年度より減少したものの、中学校では増加している。また、「普段の授業では、児童生徒の間に話し合う活動をよく行っている」と肯定的に答えた児童生徒の割合は小・中学校とも昨年度より増加している。

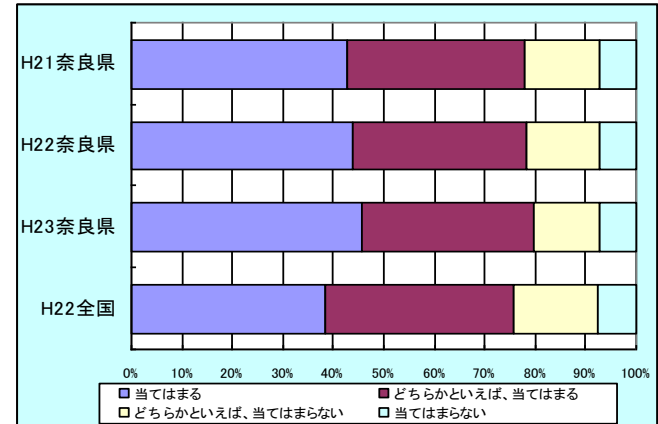
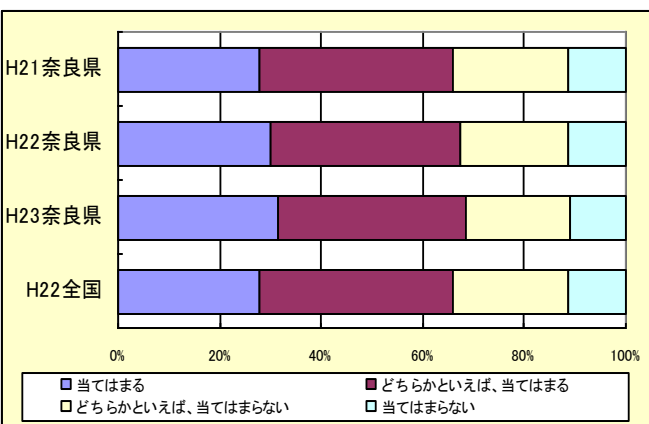
普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



普段の授業では、児童生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思いますか



学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりするのは難しいと思いますか



平成22年度全国学力・学習状況調査、平成23年度奈良県学習
状況調査の結果から明らかになった課題

- ① 表現の仕方に注意して読み、内容について理解すること。
- ② 日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現すること。
- ③ 学習は大切だと思っている児童生徒の割合に比べて、学習が好きだと思っている児童生徒の割合が低い。
- ④ 学校のきまりを守っている児童生徒の割合が低いなど、規範意識に課題がある。
- ⑤ 全国学力・学習状況調査の調査結果が、学校の取組に十分に生かされていない。

改善に向けて

◎知識や情報を活用して、問題解決を図る活動を組み立てましょう。

- ・児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問を行い、自分の考えを発表する機会を与える。
- ・授業の内容と関連させて、調べさせたり、発展的に考えさせたりするために家庭学習の課題を与える。

◎学習に対する意欲を高める手立てを工夫しましょう。

- ・授業で学習した漢字や計算方法などを実際の生活で使うなど、学習内容を普通の生活に活用できないか考えさせる。
- ・補足的な指導や発展的な指導など指導方法の工夫をする。

◎きまりやルールに対する意識を高めましょう。

- ・職場体験活動やボランティア活動等の体験活動を通して、規範意識や社会性の向上を図る。
- ・基本的な生活習慣を身に付けさせるよう家庭に働きかける。

◎学校全体で取り組むシステムをつくりましょう。

- ・模擬授業や事例研究など、実践的な研修を積極的に行う体制を整える。
- ・学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取り組む。

◎学校・家庭・地域が連携するシステムをつくりましょう。

- ・学校の教育活動について、学校通信やホームページ等で積極的に情報提供を行う。
- ・地域の人が自由に授業参観ができる学校公開日を設ける。

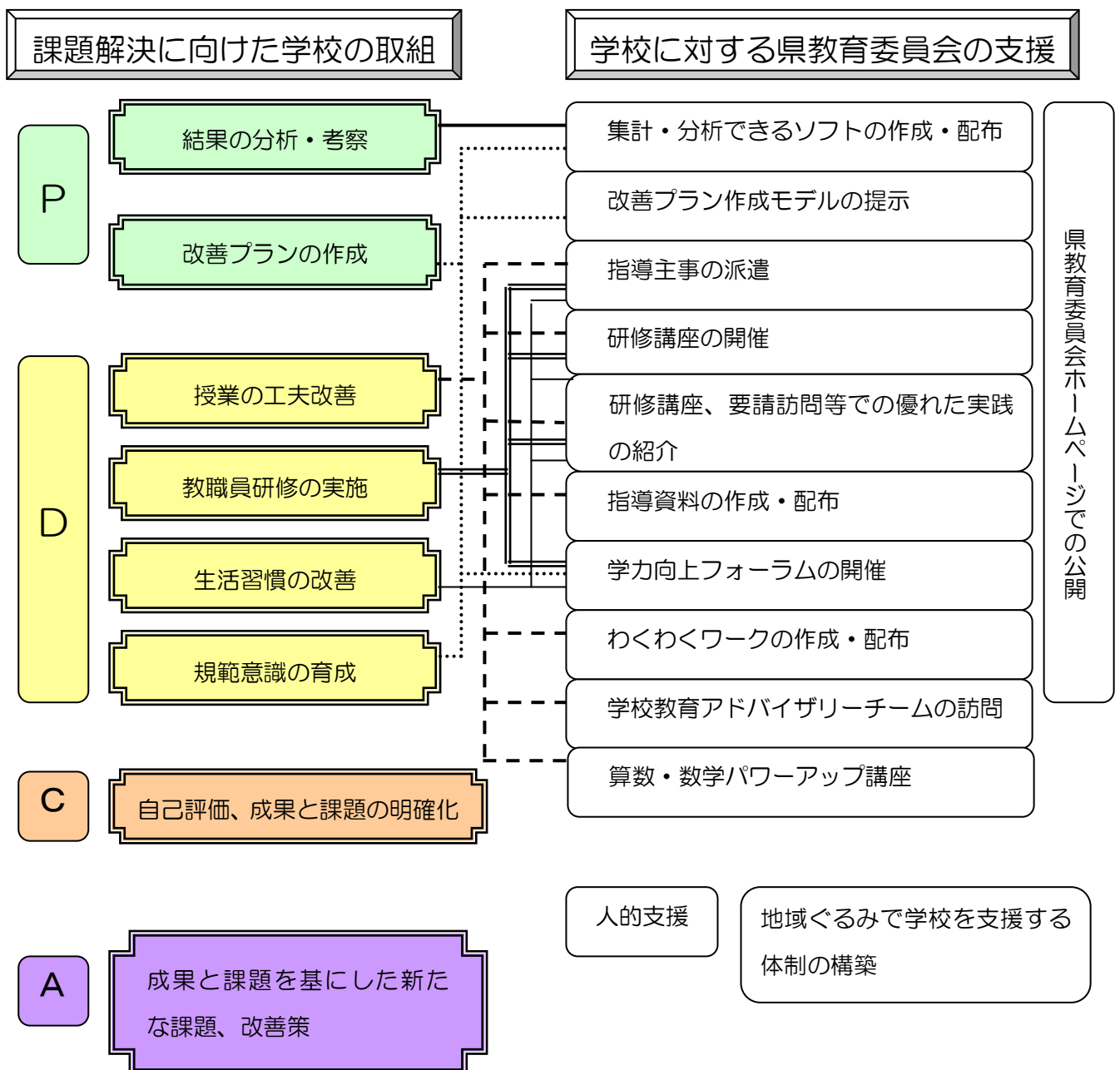
◎調査問題や調査結果を授業改善、指導改善に生かしましょう。

- ・学校の指導計画や取組を検討するに当たり、全国学力・学習状況調査と奈良県学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にする。
- ・全国学力・学習状況調査と奈良県学習状況調査の調査問題や調査結果を調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用する。

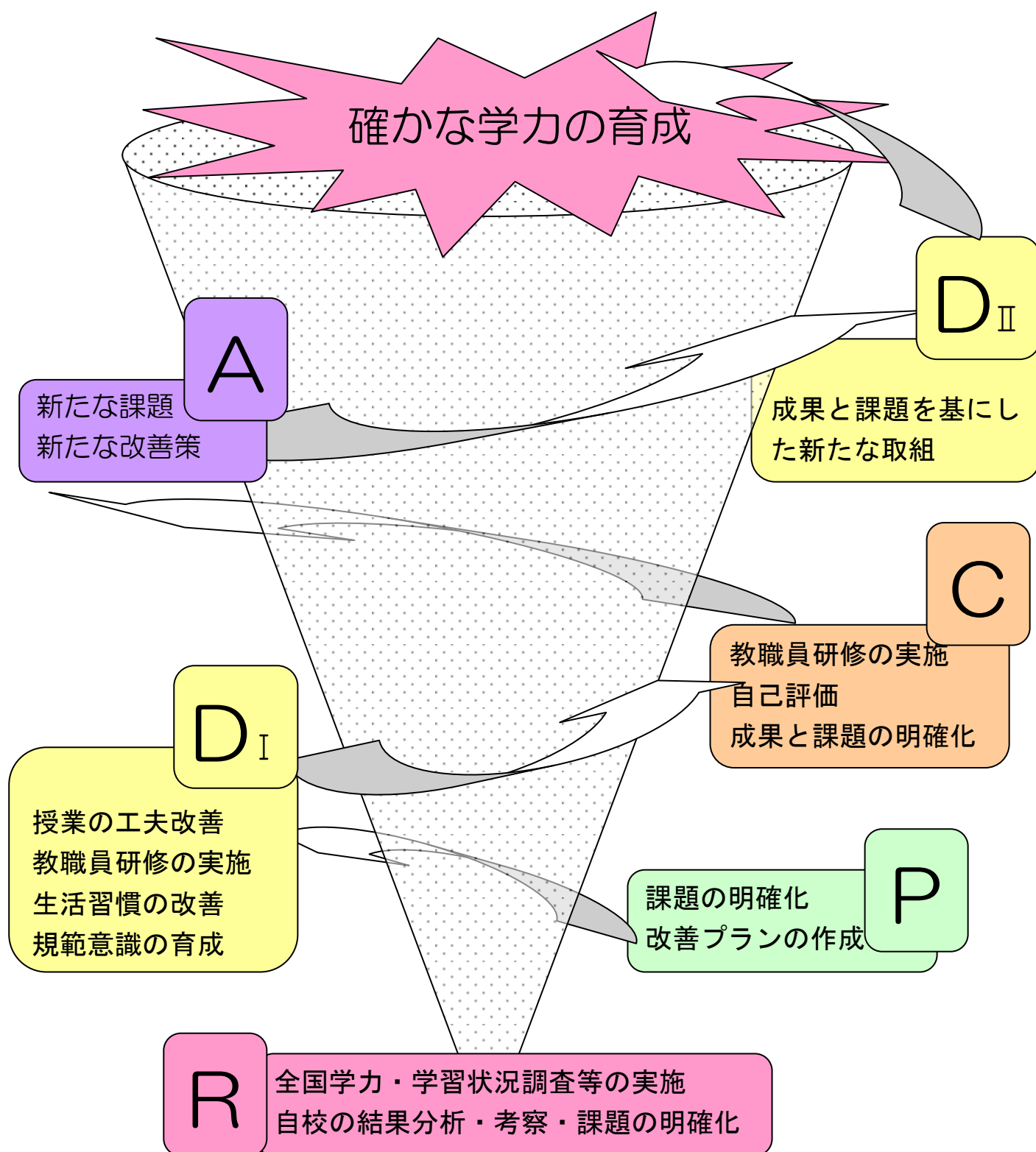
※ 各項目に2つずつ示したものは、課題解決のための参考例です。

各学校での検証改善サイクルと取組例

年間を見通して、学校全体で取り組むシステムをつくりましょう。いくつかの例を示しています。取り組む際の参考にしてください。県教育委員会では、それぞれの取組に応じた支援を行っています。



検証改善サイクル構造図



結果の分析・考察

学校全体で取り組むシステムをつくりましょう。
学校独自の改善プランを作成するには、全国学力・学習状況調査等の学校の調査結果を集計・分析することが必要です。

分析の視点(例)

教科に関する調査

- ・設問別正答率
- ・類型別正答率
- ・正答数の分布の形状

どんな学力の状況・課題があるのでしょうか

- ・平均正答率が全国と比較して差の大きいもの
- ・平均正答率が全国と比較して低いもの
- ・平均正答率が他の問題と比較して低いもの
- ・無解答率が高いもの

どこに課題があるか明らかにしましょう

質問紙調査

- ・全国平均より5ポイント以上高いもの
- ・全国平均より5ポイント以上低いもの
- ・他の設問と比較して差の大きいもの

どこに課題があるか明らかにしましょう

教科に関する調査と質問紙調査との相関をみる

県教委では、各学校で活用できる集計・分析のためのソフトを提供しています。

改善プランの作成

学校全体で取り組むシステムをつくるため、学力向上にかかわる校内組織を設置しましょう。

既存の組織も活用し、確かな学力を身に付けさせるために、学校・家庭・地域の役割を明確にし、連携できるようにしましょう。

分析結果を踏まえて、学校としての重点目標を定め、学校全体で取り組みましょう。

授業の工夫改善

教職員の研修

知識・技能を活用して、問題解決を行う学習を組み立てましょう。
学習に対する意欲を高める手立てを工夫しましょう。

★★★ 学習意欲の向上を目指す ★★★

- ⇒ 興味・関心を高める教材の開発を行う。
- ⇒ 朝の学習や朝の読書など、継続した取組の中で達成感や成就感を味わわせる。
- ⇒ 単元のはじめに学習の見通しをもたせる。
- ⇒ 失敗や苦勞をしてもやりとげさせ、達成感を味わわせる。
- ⇒ 学習規律の定着を図る。 等

★★★ 知識・技能の確実な定着を図る ★★★

- ⇒ つまづきやすい内容を繰り返し学習する機会を設ける。
- ⇒ 少人数指導、個別指導、習熟度別指導等の指導体制を工夫する。
- ⇒ わくわくワーク（ワークシート）を活用する。
- ⇒ 家庭学習の工夫をする。 等

★★★ 知識・技能を活用し、課題を解決する力の育成を図る ★★★

- ⇒ 知識・技能を活用する場面を取り入れた指導計画を立てる。
- ⇒ 日常生活との関連を図った学習活動を意図的に取り入れる。
- ⇒ 体験的な活動の中に、知識・技能を活用する場面を位置付けた指導を展開する。
- ⇒ 学び方や考え方を身に付けさせる学習を取り入れる。
- ⇒ 指導資料を活用し、授業改善を図る。 等

★★★ 日常生活との関連を図った言語活動の工夫を図る ★★★

- ⇒ 各教科において位置付ける言語活動を明らかにする。
- ⇒ 身に付けた言語能力を使う必然性のある場面を設定する。
- ⇒ 教職員自身の言語の見直しを行う。
- ⇒ 話合いの司会や発表の機会を充実させる。
- ⇒ 相手や場面に応じた話し方や書き方について指導を行う。
- ⇒ 少人数での話合いの場面を設定する。
- ⇒ 話の要点を聞き取り、要約する活動を取り入れる。
- ⇒ 限られた条件の中で、必要な情報をまとめて表現する学習を取り入れる。
- ⇒ 掲示物等の学校内の児童生徒の言語環境を充実させる。
- ⇒ 学校図書館の計画的な活用を図る。
- ⇒ 読書活動の一層の推進を図る。
- ⇒ 指導資料を活用し、授業改善を図る。 等

★★★ 校内研修の充実を目指す ★★★

- ⇒ 明らかになった課題を解決するための研修内容を検討する。
- ⇒ 児童生徒の実態に応じた指導方法の改善点を検討する。
- ⇒ 自校の課題解決のための重点目標の設定や、研修計画の作成を行う。
- ⇒ 研究授業を積極的に行い、実践的な研究を重ねる。
- ⇒ 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、教科指導の改善に生かす。 等

★★★ 効果的な指導体制の確立を目指す ★★★

- ⇒ 指導計画の見直しや指導体制の検討を行う。
- ⇒ 研修体制や研修計画を見直す。
- ⇒ 学校支援地域本部事業等を活用するなど、地域ぐるみで学校を支援する体制の構築を図る。 等

授 業 診 断 シ ー ト

学校名：	小学校	教科等：
学年組：	年 組	
日 時：	年 月 日第 校時	授業者：

項目	診 断 の 観 点	備 考
児童 の 状 況	教員や友達の話を中心して聞いている。	
	学習内容を踏まえ、進んで発言している。	
	学習内容に沿って、意欲的に活動している。	
	お互いに意見を聴き合い、交流している。	
	学習内容を踏まえた記述をしている。(ワークシート、ノート等)	

授 業 の 展 開 等	導入を工夫している。	
	学習のめあてを明確に示している。	
	ねらいに即した授業展開で進めている。	
	考える時間や活動時間などを適切に配分している。	
	明確な指示や説明をしている。	
	発問を工夫している。	
	資料や具体物を有効に活用している。	
	文字の大きさや配列を工夫するなど、分かりやすい板書をしている。	
	児童一人一人の学習状況に応じた支援をしている。	
	ねらいに基づいた評価を行っている。	
学習環境を整えている。		

指 導 方 法 の 工 夫	問題解決を図る活動を取り入れている。(考えを引き出す発問、思考を深める発問、考えを発表する場の設定など)	
	体験的な学習を取り入れている。	
	グループ学習を効果的に取り入れている。	
	個別指導や習熟の程度に応じた指導を取り入れている。	
	保護者や地域の方々等の活用を図っている。	
コンピュータ等の情報機器を有効に活用している。		

※小学校用

授 業 診 断 シ ー ト

学校名：	中学校	教科等：
学年組：	年 組	
日 時：	年 月 日 第 校時	授業者：

項 目	診 断 の 観 点	備 考
生徒 の 状 況	時刻を守り、規律正しい学習態度で取り組んでいる。	
	教科書等、必要な学習教材・用具を準備している。	
	学習内容について意欲的に質問などを行っている。	
	教員や友達の意見を聞き、自らの考えを述べている。	
	自らの課題を見つけて、効果的にノートを作成している。	

授 業 の 展 開 等	学習内容に興味・関心をもつことができる導入や教材の工夫をしている。	
	本時のねらいを明確に示している。	
	考える時間や活動する時間を適切に配分している。	
	生徒への指示が適切で、丁寧な説明をしている。	
	生徒の考えを広めたり、深めたりするよう発問を工夫している。	
	学習の内容と授業展開がよく分かるよう板書を工夫している。	
	生徒の学習状況を確認しながら適切な指導、助言をしている。	
	本時の達成目標を明らかにし、達成状況を確認している。	
	生徒の安全に留意しながら授業を進めている。	
	落ち着いた雰囲気での学習意欲がわく教室環境を整備している。	

指 導 方 法 の 工 夫	問題解決を図る活動を取り入れている。	
	体験的な学習を取り入れている。	
	個別指導やグループ別指導を効果的に取り入れている。	
	習熟の程度に応じた指導や少人数指導を行っている。	
	チームティーチングの指導で役割分担をし、効果的な指導をしている。	
	ゲストティーチャーの活用等、地域のサポート体制を生かしている。	
	コンピュータ等の情報機器を有効に活用している。	

授 業 診 断 シ ー ト

学校名： 高等学校 教科等：
 学年組： 年 組
 日 時： 年 月 日 第 校時 授業者：

項 目	診 断 の 観 点	備 考
生徒の状況	授業の開始時間を厳守し、意欲的に学習に取り組む準備をしている。	
	授業に必要な学習教材を用意している。	
	落ち着いたある態度で、集中して学習に取り組んでいる。	
	積極的に発言したり、活動したりしている。	
	板書内容等、活用できるノートの作成に努めている。	

授業の展開等	導入を工夫している。	
	時間厳守で開始し、適切な時間配分で授業を行っている。	
	生徒の意欲を高めるように説明している。	
	生徒の考えを広めたり、深めたりするよう発問を工夫している。	
	生徒の発言に対して、適切に対応している。	
	生徒の学習理解を促すために教材・教具等の工夫をしている。	
	生徒の学習理解を促す板書内容になっている。	
	生徒の反応を確かめながら指導を行っている。	
	授業規律を守るよう適切な指導を行っている。	
	生徒の安全に留意しながら授業を行っている。	
本時のねらいに即した授業を行い、適切に評価している。		

指導方法の工夫	問題解決を図る活動を取り入れている。	
	体験的な学習を取り入れている。	
	グループ学習を効果的に取り入れている。	
	習熟の程度に応じた少人数指導等を取り入れている。	
	チームティーチング等、教員の協力的な指導を取り入れている。	
	コミュニティーチャー等、地域社会の人材を活用している。	
	コンピュータ等の情報機器を有効に活用している。	

※高等学校用

授 業 診 断 シ ー ト (特別支援学校)

学 校 名 :	学 校	授 業 名 :
学 部 年 組 :	学 部 年 組	
日 時 :	年 月 日 第 校 時	授 業 者 :

項 目	授 業 診 断 の 観 点	備 考
児 童 生 徒 の 状 況	見通しを持って主体的に授業に参加している。	
	授業への意欲・関心を持続し、集中している。	
	児童生徒がいきいきと活動し、満足感を得ている。	

授 業 の 展 開 等	導入が本時の学習の動機付けになり、児童生徒の意欲が高まるよう工夫している。	
	本時のねらいに即した授業を行っている。	
	児童生徒の実態に応じた速さで展開している。	
	児童生徒の実態に応じたコミュニケーション手段を工夫している。	
	児童生徒の意欲等を引き出す適切なことばかけをしている。	
	児童生徒の成功経験を豊富にし、自主的・自発的な活動を促す授業展開を行っている。	
	生活に結びついた具体的な活動を取り入れている。	
	集団における役割が得られるよう、ことばかけに配慮したり、仲間を意識させる活動を取り入れたりしている。	
	児童生徒の興味関心を引き、学習意欲を高めるために教材・教具等を工夫している。	
	チームティーチング等、指導者の役割が明確で効果的な指導を行っている。	

指 導 へ の 配 慮	児童生徒の健康・安全等、十分留意している。	
	教室を整頓し、掲示物を整理している。	
	障害の状態に応じた学習環境の整備に配慮している。	

※特別支援学校用

県教育委員会では

- 指導主事が学校や市町村教育委員会の要請に応じて訪問します。
- 学校教育アドバイザーチームが学校を訪問し、授業や学級・学年経営等についても広く懇談します。
- 県立教育研究所で実施している研修講座では、活用する力を意識したり、意欲を高める工夫を取り入れたりする内容を盛り込んだ講座を次のように開講しています。

「言語活動の充実を図る研修講座」

「理数教育の充実を図る研修講座」

「伝統や文化に関する教育の充実を図る研修講座」

「道徳教育の充実を図る研修講座」

「体験活動の充実を図る研修講座」

「外国語活動の充実を図る研修講座」

「子どもの体力向上指導者養成研修講座」 等

- 県立教育研究所でのプロジェクト研究の成果を広めます。
- 学力向上フォーラムを開催しています。
- 算数・数学の基礎的・基本的な内容の定着を図るため、領域別に構成したワークシート「わくわくワーク」を配布しています。
- 奈良県小学校・中学校教科等指導資料を配布しています。

確かな学力の育成

重点

基礎・基本の定着を図り、それらを活用する力を育む

■ 幼稚園

- ・ 調べる、比べる、尋ねるなどの様々な手法を組み合わせ、楽しみながら課題を見だし解決する活動を工夫する。
- ・ 感じたことや経験したことを自分なりの言葉で表現する力を育成する。

■ 小学校

- ・ 個に応じた指導の充実とともに、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるため、繰り返し学習などの学習活動を工夫する。
- ・ 各教科等において、記録、要約、説明、話し合いなどの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。

■ 中学校

- ・ 個に応じた指導の充実とともに、小学校の学習内容を考慮し、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるため、繰り返し学習などの学習活動を工夫する。
- ・ 各教科等において、記録、要約、批評、論述などの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。

■ 高等学校

- ・ 個に応じた指導や中学校における学習との系統性を考慮し、知識及び技能を定着させるため、学習活動を工夫する。
- ・ 各教科等において、編集、解説、批評、討論などの言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。

■ 特別支援学校

- ・ 「個別の指導計画」に基づいた効果的な学習指導を展開する。
- ・ 発達段階、障害の状態及び特性等に応じた自立を目指し、自ら働きかける力を養う。

支援するための取組

● わくわくまなびフェスタの開催

子どもの「学習意欲の向上」を目指し、県内の学校関係者、諸団体の多様な教育力を結集し、様々な学びの場の具体例を示すことで、子ども、教員、保護者に学びへの気付きとなる機会を提供する。

● 奈良県小学校・中学校教科等指導資料

学習指導要領改訂の趣旨及び本県の課題を踏まえた指導資料を示し、児童生徒への指導に役立てるとともに、新学習指導要領の円滑な実施を図る。

● 奈良県学校改善支援プラン

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各市町村教育委員会や小・中学校が、このプランを活用し、自らの取組の課題を明らかにし、授業改善等に役立てる。

● 確かな学力の育成に係る実践的調査研究

各学校や地域の実情・課題に応じた授業、指導方法の工夫・改善についての実践研究、全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究を実施し、児童生徒の学力の向上を図る。

● 学力向上フォーラム

県内小・中・高等学校における学力向上を図る取組や成果について実践発表等を行うとともに、全国学力・学習状況調査の分析結果から、課題解決への道筋を探る。

● 「奈良の伝統、文化、自然等に関する学習」の指導資料(高等学校)

奈良の伝統、文化、自然等に関する探究的な学習の指導資料を作成し、生徒への指導に役立て、国際社会の中で新しい文化を創造する力を養う。

など

「平成24年度学校教育の指導の重点」 奈良県教育委員会 より

関連ホームページアドレス

<http://www.pref.nara.jp/secure/39466/H24sidoujyuuten.pdf>

生活習慣の改善

規範意識の育成

- ・ きまりやルールに対する意識を高めましょう。
- ・ 学校・家庭・地域が連携するシステムをつくりましょう。

★★★ 基本的な生活習慣の確立を目指す ★★★

- ⇒ 家庭での生活習慣、学習習慣等の改善に向けた啓発を行う。
- ⇒ 自ら取り組むことができるような家庭学習の課題の出し方を工夫し、家庭学習の目標を立てる。
- ⇒ 学校に行くまでに持ち物を確認することや、テレビを見たりゲームをしたりする時間のルールを決めることなど、生活習慣に関する事柄を個人懇談や学級懇談会の話題として取り上げる。
- ⇒ 家庭の教育力向上のためのリーフレット、「家庭教育7か条」や「親学サポートブック」等を活用する。 等

★★★ 規範意識を高める指導を目指す ★★★

- ⇒ きまりやルールの必要性を実感させる指導の工夫を行う。
- ⇒ 学習規律の確立を目指す。
- ⇒ 掃除や片付け等、家庭の仕事について、家族の一員として児童生徒が役割をきちんと分担することの大切さを啓発する。
- ⇒ 年中行事や地域の行事等に積極的に参加するよう啓発する。 等

★★★ 学校・家庭・地域が連携できるシステムづくりを目指す ★★★

- ⇒ PTA行事の一環に、家庭教育に関連する講演会等を位置付ける。
- ⇒ 保護者や地域住民に対して、積極的に自校の取組や評価等の情報を公開する。
- ⇒ 自由に参観できる学校公開日を積極的に設ける。 等

県教育委員会では

◎家庭の教育力向上と子どもたちの生活習慣の確立を目指して、啓発リーフレットを作成・配布しています。

- これまでに作成・配布した家庭教育にかかわる資料
 - 「親学サポートブック ー子どもと向き合ってー」（乳幼児期編）
 - 「親学サポートブック ー思春期の子どもをもつ保護者のためにー」（思春期編）
 - 「16事例で考える小学校と家庭との連携」
 - 「家庭教育7か条 ーならっ子 みんなで育てようー」
- その他の取組
 - 「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動
 - 「夏休み！ノーテレビ・ノーゲームデーチャレンジ大作戦」
 - 手伝い・あいさつキャンペーン

さらに、家庭における規範意識を高めるための研修講座や乳幼児や思春期の子どもをもつ保護者への対応のための研修講座を開催しています。

◎規範意識を高めるために次のような取組を行っています。

- 子どもの規範意識向上委員会の設置
 - 規範意識の改善提言（中間発表）
 - 生徒指導指針の作成（小・中学校編）

◎地域による子育て意識の高揚を図り、学校における学習活動の効率化や子どもの規範意識の向上、体力向上などを図るために、学校・地域連携事業を推進しています。

◎児童生徒の問題行動の減少及び高等学校の中途退学者の減少を目指して学校サポーターを配置しています。

◎豊かな経験と専門的知識や技術をもつ方にコミュニティーチャーとして県立学校の講師（ボランティアによる非常勤講師）になっていただき、より実践的な特色ある授業の手助けをしてもらっています。



豊かな人間性の育成

重点

正しく判断し、行動する力を育む

■ 幼稚園

- ・身近な人々との関わりを深め、愛情や信頼感、他の人を思いやる心を育む。
- ・自然や身近な動植物に親しませ、生命を大切にすることを育む。
- ・協同して遊ぶことを通して、よいことや悪いことに気付かせ、ルールを守ろうとする態度を養う。

■ 小学校

- ・自分や他の人を理解し、生命を大切にすることを育む。正義感、責任感を育む。
- ・集団宿泊活動や自然体験活動などを通して、基本的な生活習慣や社会生活上のルールを身に付けさせる。

■ 中学校

- ・自分や他の人への理解を深め、生命を大切にすることを育む。人権を尊重する心や自律心、責任感、正義感を育む。
- ・職場体験活動やボランティア活動などを通して、社会生活上のルールやマナーを身に付けさせ、社会参画しようとする態度を養う。

■ 高等学校

- ・人権尊重の精神と生命に対する畏敬の念を深め、他者と共に主体的に生きる能力と態度を育てる。
- ・就業体験やボランティア活動などを通して、法やルールの意義を理解し、社会の一員としての自覚を深めさせる。

■ 特別支援学校

- ・経験の拡充を図ることで、人の心情を理解する力や判断力を身に付けさせる。
- ・集団に参加することを通して、自分の役割を理解し、行動する力を育む。

支援するための取組

● ふれあいフェスタの開催

動物とのふれあい、動物についての学習や体験を通して、命の尊さを実感し、思いやりの心や規範意識を育む。

● 「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動

親子の関わり方を見直すことを通して、家庭の教育力を向上させ、幼児期における子どもの基本的な生活習慣の向上や規範意識の芽生えを培う。

● 夏休み!ノーテレビ・ノーゲームデーチャレンジ大作戦

夏休み期間中に、テレビを見たりゲームをしたりする時間を、読書や学習、家庭での会話などに活用することを通して、規則正しい生活のリズムや基本的な生活習慣などを身に付けるとともに、家庭での会話の一層の促進を図る。

● 人権教育資料等の作成

「人権教育の推進についての基本方針」などを踏まえ、知識・態度・技能面のバランスのとれた系統的・体系的な人権教育のための教材を作成し、人権尊重の社会づくりに向けて主体的に行動できる児童生徒の育成に役立てる。

● 生徒指導ガイドライン

児童生徒の規範意識の醸成を図るため、生徒指導の在り方についてのガイドライン(小・中学校向け、高等学校向け)を活用し、生徒指導の充実を図る。

● 道徳教育「奈良県郷土資料」

郷土奈良の自然、伝統と文化などを取り上げ、小学校低、中、高学年及び中学校用の郷土資料を作成し、郷土を愛する心を育む道徳の時間等の指導の充実を図る。

など

「平成24年度学校教育の指導の重点」 奈良県教育委員会 より

関連ホームページアドレス

<http://www.pref.nara.jp/secure/39466/H24sidoujyuuten.pdf>

チェック機能の充実

- ・ 学校・家庭・地域が連携するシステムをつくりましょう。
- ・ 学校全体で取り組むシステムをつくりましょう。

評価の観点等は、はじめに作成した改善プランを基に作成します。

学校で定めた重点目標に基づいて取組の成果と課題を検証し、取組の修正を行います。

自己評価だけでなく学校関係者評価においても評価項目を設け、評価結果や改善に向けた方策を積極的に公表しましょう。

参考となるホームページアドレス一覧

文部科学省	http://www.mext.go.jp/
国立教育政策研究所	http://www.nier.go.jp/
奈良県教育委員会	http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid=1691.htm
奈良県立教育研究所	http://www.nara-c.ed.jp/